

2021年12月 直接支援家庭向け調査報告書 (概要版)



2022.1.11

事務局から直接的に支援を受ける家庭について、
家庭を取り巻く環境や、当団体とのつながりに対する意識や実態を把握し、
今後の活動の示唆とする。



調査目的	直接支援を受ける方の家庭環境やOOCとのつながりに対する評価を定量的に把握し、今後の活動の示唆とする。
調査手法	インターネット調査
調査対象	冬休みのおすそわけを希望し、事務局へ受取り報告をした計2,092世帯
調査時期	2021年11月11日（木）～12月25日（土）
サンプル数	計400サンプル（調査対象者から無作為抽出）

1

コロナ禍による困窮状態が長期化、また公助の遅れもあり、おてらおやつクラブの直接支援を求める家庭は全国へ広がっている。

2

直接支援を受ける家庭は、とくに公的支援の受給率が高いわけではなく、また、おてらおやつクラブ以外の支援団体とのつながりも希薄である。

3

直接支援により、心理的状況が改善された方は9割以上を占め、経済的な状況改善（8割）を上回る。

認定NPO法人おてらおやつクラブはこのたび、活動を初めて5回目となる直接支援家庭向け調査を行いました。今回は「歳末たすけあい～たよってうれしい、たよられてうれしい」と企画し、全国のお寺さまや支援者さまと協力しておこなった「冬休みのおすそわけ」を受け取った世帯2,092世帯を対象とした大規模なものとなっています。

コロナ禍による困窮状態の長期化により、「おすそわけ」発送件数は年々、増加しています。事務局に届く「助けて」の声の背景には、公的な支援の遅れや、地域の支援との結びつきの少なさがあります。そのような状況下、多くのお母さんたちが今なお先が見えない日々を送っている不安な気持ちを声として届けてくださいました。

個人情報に配慮した物流システムにより、全国のお寺に分散して家庭向けの「おすそわけ」が可能となり、急増する発送件数に対応しています。その「おすそわけ」は、物を届けるだけでなく、それぞれの思いとともにお届けできたこと、それらが引き続き、困窮世帯の心理的改善につながっていることが今回の調査で確認できました。

おてらおやつクラブは全国のお寺や寄付・寄贈でお心を寄せてくださる方々とともに、今後も持続可能な形で事業を進めてまいります。引き続きご支援のほど、よろしくお願い致します。

おてらおやつクラブの直接支援を受ける家庭は、
30-40代女性と子ども1-2人のひとり親家庭、関西圏居住者が多い。

Q. 親の性別

	N	女性	男性	無回答
全体	400	97.8%	1.3%	1.0%

Q. 親の年齢

	N	10代	20代	30代	40代	50代	60代以上
全体	400	0.3%	7.8%	42.3%	40.5%	9.3%	0.0%

Q. 子どもの人数

	N	1人	2人	3人	4人	5人
全体	400	44.0%	36.5%	15.8%	3.3%	0.5%

Q. 居住地

	N	関西圏 2府4県	首都圏 1都3県	その他
全体	400	45.8%	18.8%	35.5%

多くはパート・アルバイトとして従事しており、
仕事での収入は10万円前後、預貯金は50万円未満が多くを占める。

Q. 親の雇用形態

	N	パート・ アルバイト	正社員	契約社員	自営業・ フリーランス	派遣社員	無職
全体	400	41.5%	28.0%	5.0%	5.0%	4.8%	15.8%

Q. 親の仕事での収入

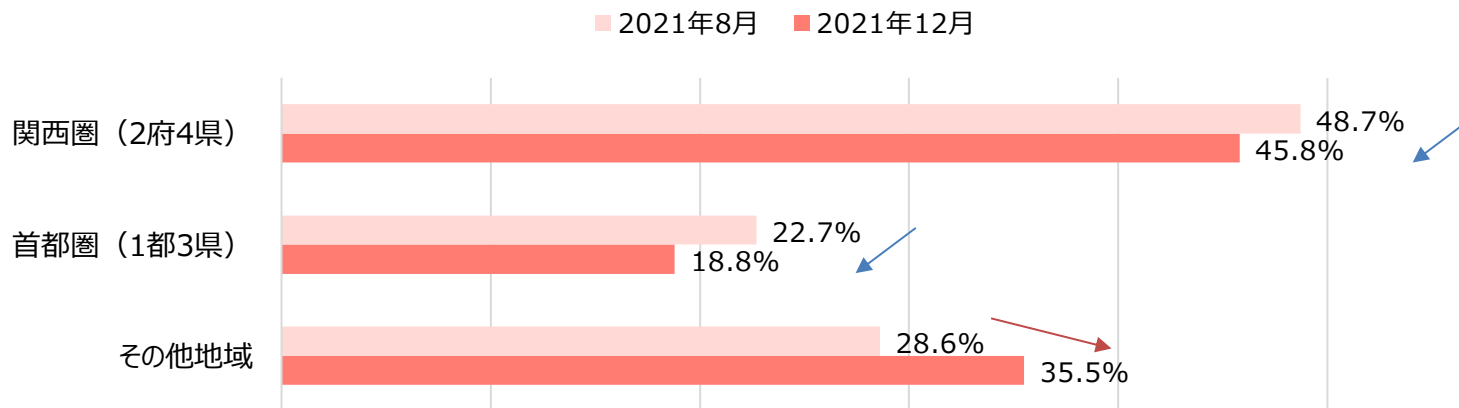
	N	収入なし	1～5万円 未満	5～10万円 未満	10～15万円 未満	15～20万円 未満	20万円 以上
全体	400	23.0%	7.0%	18.0%	29.5%	18.0%	4.5%

Q. 親の預貯金

	N	預貯金なし	1～50万円 未満	50～100万円 未満	100～150万円 未満	150～200万円 未満	200万円 以上
全体	400	38.5%	31.0%	15.3%	6.3%	3.0%	6.0%

コロナ禍による困窮状態が長期化、また公助の遅れもあり、おてらおやつクラブの直接支援を求める家庭は全国へ広がっている。

Q. 居住地分布、前回調査との比較



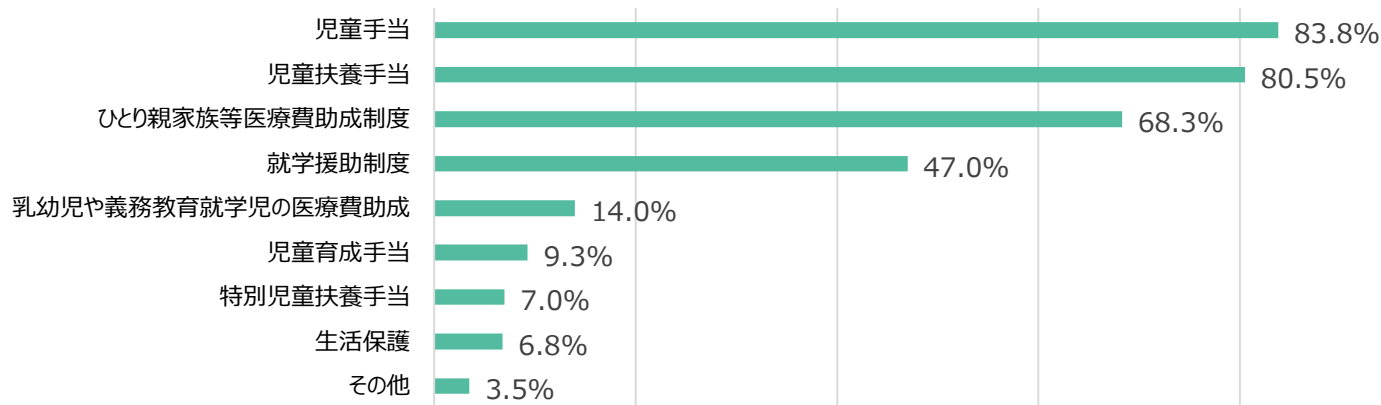
Q. 生活で困っていること



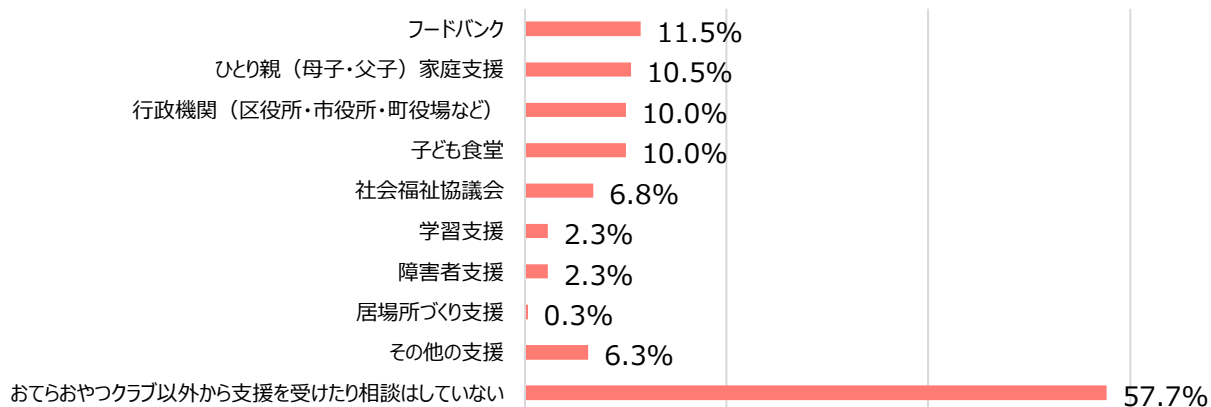
- ・仕事がシフト制なのですが、希望した分の日数より出勤できる日が少なく、**Wワークしなければならなくなりました。**
(30代のお母さん、女兒1人)
- ・**子供達が順番にコロナに感染**し、入院準備や備品など普段いらない出費がかさなり、とても苦しい状況が長引いています。
(50代のお母さん、男児1人、女兒1人)
- ・**会社はもう2年間ボーナスも無く、昇給もありません。**母子家庭である私にとってはとても痛いです。次女は現在高校生ですが、部活動もしておりますし、大学進学を希望しています。絶対にやっていけません。(40代のお母さん、女兒2人)

直接支援を受ける家庭は、とくに公的支援の受給率が高いわけではなく、また、おてらおやつクラブ以外の支援団体とのつながりも希薄である。

Q. 受給している公的支援（複数回答）

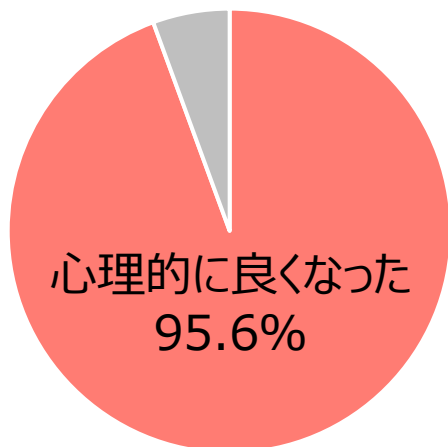


Q. 生活相談や支援を受ける団体（複数回答）

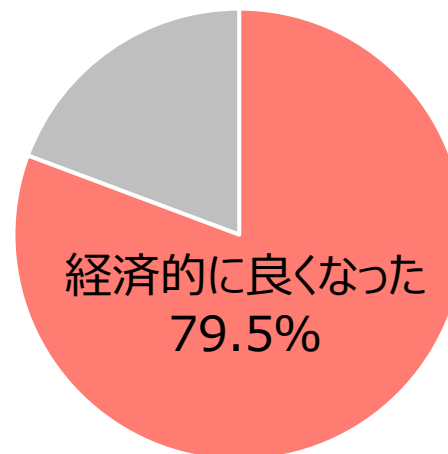


直接支援により、心理的状況が改善された方は9割以上を占め、
経済的な状況改善（8割）を上回る。

Q. 直接支援による心理的状況の改善



Q. 直接支援による経済的状況の改善



Q. 状況改善の理由



- ・荷物が届くまで、開封するのを子供が楽しみにしていました。学校や受験などで精神的ストレスで引きこもりになってましたが、久しぶりにはしゃいでよく喋りながら開封していました。子供らしい姿に、私も嬉しかったです。(40代のお母さん、女兒1人)
- ・助けてくださる方がいるという安心感が強く、孤独感を感じる事が少なくなったからです。(20代のお母さん、男児1人)
- ・やはり日々の生活の不安があります。しかしこうやっておてらおやつクラブさんに助けて頂いたお陰で、**どん底からは少し抜け出せたと思います**。(30代のお母さん、女兒2人)

Q. 届いた「おすそわけ」の感想や、お子さんのご様子、ご家庭の近況などご自由にお聞かせください。

・娘が開けた瞬間から大喜びでした。お米は本当に助かります。また、今回はお菓子がたくさんで嬉しかったです。娘はおてらおやつクラブさんからのクリスマスプレゼントだー!とほんとに喜んでいました。その娘の喜ぶ姿にさらに感謝ができました。(30代のお母さん、男児1人、女児1人)

・お米が本当に助かります。ボディソープも無かったので有難いです。子供もとても喜んでいますが、その姿を見ると本当に感謝で胸がいっぱいになります。小さな事でも親切によって、周りに返していこうねと話しています。(50代のお母さん、女児1人)

・冬なので暖かくして食べたりするようなものが多くて、非常にありがたいです。またクリスマスのイメージが強いシュトーレンもあり、とても頂くのが楽しみです。そういう季節になって、送る相手を想う気持ちが品にたくさん詰まっている感じがします。(40代のお母さん、男児1人、女児1人)

・娘2人に障害があり、シングルマザーとして生活をしてきましたが、無理がたたったのか私自身も障害を負ってしまい、細々と仕事は続けているものの日々不安な生活をしています。この度は美味しそうなお米やふりかけを頂きました。本当に助かりました。このお米とふりかけで、母子3人でおにぎり作りをしたいと思います。(30代のお母さん、女児2人)

・心のこもったおすそわけをありがとうございます。収入の為に年末もお正月も働かなければならず、年越しの事など考える余裕も無かったのですが、おすそわけに入っていた干し柿とお蕎麦を見て、ああ、これで年が越せるなあと。しみじみ感じました。娘も早速にお菓子を頂きました。(40代のお母さん、女児1人)

名称	認定NPO法人おてらおやつクラブ
所在地	〒636-0311 奈良県磯城郡田原本町八尾40
活動開始	2014年1月1日
認定NPO法人認証	2020年11月27日
Webサイト	http://otera-oyatsu.club
代表者	代表理事 松島靖朗
役員	理事 高山信雄 理事 野田芳樹 理事 福井良應 理事 桂 浄薫 理事 松野尾浩慈 監事 井出留美 監事 渡邊元浄
相談役	森本公穰